

終戦から 75 年目を迎えて

日本のお盆休みというと、久しぶりに会う祖父母や親戚との再会を楽しみに、渋滞や混雑のなか帰省する、というのが恒例だろうか。親戚一同が東京に住んでいた私にとって、新幹線などを利用し「お盆に実家へ帰る」ことが特別に思えて、とても羨ましかった。

2020 年は例年と違い、「Go To トラベル」が開始されるも、新型コロナウイルスの感染拡大を受け自治体が移動自粛を要請するなど、「静かなお盆休み」だった。

そんな「静かなお盆休み」のなか、日本は終戦から 75 年目という節目を迎えた。

終戦となる 1945 年 8 月 15 日を前にした 8 月 6 日、人類史上初めて広島に、9 日には長崎に原爆が投下された。被爆 75 年目を迎えた 2020 年、泰納された原爆死没者名簿の死没者累計は、広島県で 32 万 4,129 人、長崎県では 18 万 5,982 人となった。

そんな恐ろしい原爆を含む核兵器は、現在世界にはどのくらい存在するのか。冷戦期のピーク時に 70,000 発に達した核兵器保有数は、2020 年 1 月時点で 13,400 となっている（広島県発表）。核兵器は 1980 年代後半から、世界での保有数が着実に減少し始めている一方で、中国や北朝鮮などの保有数が増加しているのだ。

増加し続ける核兵器を減少へ後押ししたのは、初めて核兵器の削減を決めた条約であり、冷戦終結の象徴と言われた「中距離核戦力 (INF) 全廃条約」である。1987 年にアメリカとソ連の間で締結され、1988 年に発効された。しかし 2019 年 2 月 1 日、米国のトランプ大統領はロシアの条約違反を理由に「INF 全廃条約」からの離脱を表明。半年後の 8 月 1 日に、同条約が失効されることとなる。

一方 2017 年 7 月 7 日、国連で 122 カ国の賛成多数で「核兵器禁止条約」が採択された。この条約は核のない世界を目指し、核兵器の製造や保有、使用に加え、核実験被害者の支援や汚染された環境の改善措置なども含まれている。50 カ国が批准すると、その 90 日後に発効されることとなっている「核兵器禁止条約」。2020 年 8 月 6 日にアイルランドなど 3 カ国が新たに批准、9 日にはセントクリストファー・ネイビスが続いたことで批准国は 44 となり、条約の発効まであと 6 カ国となった。

条約交渉会議で議長を務めたコスタリカのエレイン・ホワイト・ゴメス議長が、条約成立後に「核兵器の全面廃絶に一步近づいた」と述べていたが、発効まであと 6 カ国になったことで、また一步前進したのではないだろうか。

「核」に関するニュースに触れる度、「核廃絶」の道のりは険しいと思えてしまう。だからこそ多くの方が興味を持ち学び続けることが大切、と強く感じた「静かなお盆休み」だった。

(モモ)

当コラムの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。